

でも一定であろう。さらに、ユーロニュースの報道ごとく、多数の死亡例の発生という事態であれば、これ以上の重大な瑕疵はないであろう。カナダ政府は11月12日にアジュバント無A(H1N1)2009<単価ワクチン>の市販を許可した。日本の副反応に関する調査団は11月30日から12月3日まで、カナダで調査を行った。GSKのカナダ本社や工場を訪問し、製造工程などについて事情を聴き、カナダの保健当局や接種をした複数の医療機関も訪ね、報告された副作用や、ワクチンの接種態勢などについて情報収集すると報道された。11月12日にカナダ政府による特例承認の下、認可・市販に至ったアジュバント無A(H1N1)2009<単価ワクチン>について、導入の理由、接種対象者、等について、カナダ政府が日本の政府より派遣された調査団に説明しなかったのはおかしい。

14. 2010年(寅年)、年明けから欧米各国は我先にアジュバント添加A(H1N1)2009<単価ワクチン>の貸付、返品、売買契約解除、転売競争へ突入、あるいは国民によるボイコット運動に発展

a. 貸付

(1) カナダはメキシコに余剰ワクチンを貸付け
2010年1月8日 カナダは4月には2,000万回接種分のワクチンが残る予定である。そのため、数百万回接種分のA(H1N1)2009<単価ワクチン>をメキシコに貸すことを発表した。メキシコは春に自国用のワクチンの供給を受けた際に返却することになっている⁴⁵⁾。

それ以外の余剰分を売るとかあるいはあためておくのか思案中である(ある日突然ワクチン人気が盛り上がりれば話は別である)⁴⁶⁾。

b. 再交渉に成功—納入暫定的中止、あるいは納入量を減量

(1) スウェーデンはGSKと向後の納入の一時中止の話し合いに成功

スウェーデンでは10月12日よりPandemrix(GSK製アジュバント添加A(H1N1)2009<単価ワクチン>の商品名)の接種が開始された。2009年12月4日 Pandemrixの副反応のまとめが公表された。Pandemrixが530万本出荷され、400万人が接種を受けた。副反応報告

総件数は1,200であった。アレルギー反応は426例、そのうちの371例は接種後間もなく発症した。全例短期間で回復。アナフィラキシーショック・アナフィラキシー反応は56例に認められた。神経症状を呈したのは157例、23例はけいれん／てんかん(20例は18歳以下)。接種を受けた妊婦は3万1千人、副反応例は22例、自然流産は6例、他に胎児死亡が1例。死亡は18例⁴⁷⁾。最初の1週間政府はスウェーデンにおける予防接種事故をかくさずに公表していたが、副反応の数があまりにも多いため、政府当局はワクチンキャンペーンへの影響を恐れて口を閉ざしてしまった。当初のデータから判断すれば、毒性を有する(poisonous) Pandemrixの接種によって150人以上が死亡し、数百例の流産が発生したと推定される。このような重大事象が十分検証されるか否か、そしてもし検証されたとしても公表されるかどうかは不明である⁴⁸⁾。

GSKとスウェーデン政府は2010年1月初旬にPandemrixの納入を一時中止することで合意。スウェーデンは全国民へのワクチン接種を目的として、1,800万回接種分のワクチンを購入する契約をGSKと締結した。しかし、ワクチン接種の回数が2回から1回に変更されたため、膨大な余剰が生じることが明らかとなった。そして、スウェーデン政府は、GSKから1,000万回分のワクチンが納入された段階で、一時納入を中止する。政治家の発言の仕方はあたかも中止に成功したことを誇っている雰囲気があり、製薬会社が個々の政府や国より強力であるという印象を与えたと報道された。納入の一時中止は2月に再評価される予定⁴⁸⁾。

(2) ドイツへの新型ワクチン納入量3割減へ、GSKが発表

2009年10月7日 European Commission(EC)は米国バクスター社のoil in waterアジュバント添加A(H1N1)2009<単価ワクチン>の市販を認可した^{49,50)}。しかし、ドイツでは、A(H1N1)2009<単価ワクチン>に含まれているアジュバントに対して警戒を強めていた⁵¹⁻⁵³⁾。2009年10月16日 バクスター社は同社のA(H1N1)2009<単価ワクチン>である